

は し が き

言語センター長 君 羅 久 則

言語センター広報 *Language Studies* の第13号をお届けいたします。今年は国立大学法人小樽商科大学の元年に当たります。法人化にともないさまざまな変革の波が押し寄せてきておりますが、大学の存在意義が変わるわけではありません。当言語センターとしては、これを機に今一度初心に帰り、また従来の伝統も改めて意識し直して、教育研究の発展に努めることこそが、波を乗り越える最善の策と考えております。法人化の影響というわけでもありませんが、今年は大変多くのことがなされてきました。その一部をご報告して、はしがきに代えたいと思います。

まず、LL教室の更新がなされました。従来型のLL教室をコンピュータを導入したマルチメディア型の教室に変えるもので、4月から仕様策定にかかり、平成16年度中には工事を終えて、平成17年4月からは授業などで使用可能になるよう進めているところです。今後は、近い将来にe-Learningの授業も可能になるようなシステムを構築することと併せて、学生が個別学習にも活用できるように、ライブラリの資料などについても新しいメディアで利用できるよう、充実を図っていくことが大変重要であると思われます。それは、ソフトウェア面も含めて教育環境を整備することで、教授法や学生の学習の仕方に様々な可能性を生み出し、FDの改善と発展に大きく寄与することにもなるからです。

今年度、ネイティブ・スピーカーによる外国語会話の公開講座は、新しく韓国語の講座も含めて5講座が開講されました。春から初夏にかけて、外国人教師マーク・ホルスト氏による前期英会話講座、本学のロシア語担当として新しく着任された山田久就助教授と非常勤講師のアレクサンドル・スペヴァコフスキー氏によるロシア語会話講座、裴崢教授による中国語会話講座、秋から初冬にかけてはブライアン・ペリー氏による後期英会話講座、それに今年度新しく開講した全環氏による韓国語講座の5講座が実施されました。この公開講座は、言語センターが平成5年度から毎年開催しているもので、今年で12年目になります。この他に高野寿子教授と大井裕子氏による日本語教授法の公開講座も実施しました。英会話講座を除いて受講者は必ずしも多くはありませんが、全講座とも熱心なりピーターがおり、受講された方々にはたいへん好評でした。

小樽まち育て運営協議会主催のホスピタリティ人材育成のための語学研修とOJTリーダー養成研修を、同協議会より言語センターが委託を受ける形で、平成16年8月から翌年2月までの7ヶ月間に亘って、実施しました。いずれの研修も英語、中国語、韓国語の3言語について行われ、当初の予想をはるかに上回る数の受講生が参加しています。語学研修は40名、OJT研修は23名が受講しています。

また、今年、12年ぶりに本学が当番校となり、第54回東北北海道地区大学一般教育研究会が、平成16年9月16日と17日の2日間に亘って、主として一般教育系と言語センターの教員が担当に当たり、行われました。東北北海道地区の大学、短期大学等から58大学、152名の参加を得て、成功裡に終えることができました。実施に当たっては、関係された教員、総務課を始めとする職員の方々にも、一方ならぬご協力を賜りました。研究会の実行委員長として厚く御礼を申し上げる次第です。

本学の教員と高等学校や中学校で教鞭をとっている本学卒業生とで組織する教職研究会の第17回大会が、平成16年12月11日に言語センターのマルチメディアホールを会場として開催されました。学内外の教員と学生約70名が集い、元高校長で本学の非常勤講師でもある小山正芳先生が「特色ある学校づくり——10年を振り返って」と題して講演を行ったほか、研究発表、実践

報告とシンポジウムが行われ、盛会でした。

平成 15 年 3 月 31 日付けで、ロシア語担当の匹田剛助教授が東京外国語大学に転出いたしました。匹田助教授の後任として新しく、山田久就氏がロシア語担当の助教授として 4 月 1 日付けで着任されました。

さて、言語センター所属の教員の海外出張と研修についてご報告いたします。個別言語部門ドイツ語系の鈴木将史教授が、平成 15 年 3 月 26 日から平成 16 年 9 月 15 日までの 18 ヶ月間、ベルリン自由大学での在外研究を終えて帰国しました。応用言語部門の高井收教授は、平成 16 年 3 月 21 日から 4 月 2 日までの間および平成 16 年 8 月 13 日から 26 日までの間、アメリカ合衆国ポートランド州立大学等にて海外研修を行いました。個別言語部門ロシア語系の山田久就助教授は、平成 16 年 5 月 8 日より 16 日まで、ロシアのカザンにて国際シンポジウムでの発表のため出張しました。応用言語部門 Shawn M. Clankie 助教授は、平成 16 年 5 月 26 日から 30 日まで、台湾の淡江大学にて学会発表のため出張しました。外国人教師 Mark Holst 氏は、平成 16 年 5 月 26 日から 30 日まで、台湾の淡江大学にて学会発表のため出張しました。外国人教師の Brian Perry 氏は、平成 16 年 7 月 18 日より 9 月 29 日まで、および平成 16 年 12 月 16 日より平成 17 年 1 月 10 日まで、イギリスのウォリック大学にて海外研修しました。個別言語部門英語系の大島稔教授は、平成 16 年 8 月 2 日から 10 月 4 日まで、ロシア連邦カムチャッカ州・コリヤーク自治区にて海外研修しました。個別言語部門英語系の Daniela Caluianu 助教授は、平成 16 年 7 月 6 日から 12 日まで、フランスのプロヴァンス大学にて学会発表のため出張しました。個別言語部門中国語系の裴崢教授は、平成 16 年 8 月 1 日より 22 日まで、資料収集のため、中国の揚州大学および北京師範大学にて海外研修しました。個別言語部門中国語系の萩原正樹助教授は、平成 16 年 8 月 4 日より 12 日まで、史跡調査と資料収集のため、中国安徽省および上海復旦大学にて海外研修しました。個別言語部門ロシア語系の山田久就助教授は、平成 16 年 8 月 26 日から 9 月 14 日まで、ロシアのダゲスタン大学およびダゲスタン図書館にて海外研修しました。個別言語部門ドイツ語系の副島美由紀助教授は、平成 16 年 9 月 7 日から 23 日まで、ドイツ・W・シュピース協会およびラウテンシュトラオホ＝ヨースト博物館にて海外研修しました。個別言語部門英語系の吉田直希助教授は、在外研究員として国際学会発表と資料収集のため、平成 17 年 1 月 20 日より 30 日まで英国マンチェスター大学、ウォリック大学、ロンドン大学にて海外出張の予定となっています。個別言語部門ドイツ語系の副島美由紀助教授は、平成 17 年 3 月 21 日より平成 18 年 3 月 15 日まで、ドイツのベルリン自由大学、レオ・ヴァルター・シュピース資料室およびデンパサル・ヴァルター・シュピース協会にて長期海外出張の予定となっています。また、個別言語部門英語系の羽村貴史助教授は、3 月から、アメリカ合衆国のマサチューセッツ大学アマーフト校にて長期海外出張の予定となっています。

例年の通り、今年も学生の活躍で特記すべきことがありましたので、お知らせいたします。札幌姉妹都市協会主催の第 23 回ドイツ語暗唱大会(2004 年 10 月 23 日、札幌国際プラザビル)で本学の 3 年生と 2 年生が 1 位と 2 位になりました。また、日独協会主催、朝日新聞等後援の第 7 回ドイツ語スピーチコンテスト決勝大会(11 月 27 日、東京)に本学の学生が予選を通過して出場しました。フランス語関係でも、フランス語弁論大会(朝日新聞社、札幌日仏協会・アリアンスフランセーズ、国際プラザ主催、2004 年 10 月 31 日、国際プラザ)において本学の 3 年生が奨励賞を受賞しておりますし、また、チュニジア政府の文化研修生として奨学金を得て、チュニジアにて研修を行っている学生もいます。また、英語では、相変わらず TOEFL や TOEIC で好成績を修めた学生が多数おります。昨年度も書きましたが、これらは、現時点では、旧カリキュラムの必修 20 単位の遺産と言うべきものなのかも知れません。しかし、新カリキュラムでは、4 年間を通じて、外国の言語や文化を学習するチャンスが一層拡大されていますから、さらに深い異文化理解の教養を備え、広い視野をもった、「国際的教養人」とも言うべき多くの学生を輩出することが期待できると思われれます。